

歴史散歩

(48)

真盛上人ゆかりの 古刹を訪ねて 誕生寺と成願寺

市内には、天台真盛宗の寺院が約120カ所あります。この宗派は、室町時代後期に真盛上人によって広められたもので、真盛上人は嘉吉3(1443)年に現在の一志町大仰に生まれました。現在、その場所には「誕生寺」があり、上人が生まれた際に使われたとされる産湯の井戸と、この井戸を中心とする境内一帯は「真盛上人誕生地」として県の史跡に指定されています。

この誕生寺から約800メートル西の初瀬街道に「笠着地蔵」と呼ばれる磨崖仏があります。地元では、上人が幼児の時に笠に乗せられ川に流されると川上へとさかのぼり、ここへたどり着いたという伝説があります。

また、白山町上ノ村には天台真盛宗の中本山である「成願寺」があります。明応3(1494)年、北畠氏の家臣である武将が真盛上人に帰依し、戦乱によって亡くしたわが子などを弔うために建てたと伝えられています。寺宝には、上人の念持仏と言われる「阿弥陀如来倚像」があり、国の重要文化財に指定されています。他にも重要文化財や県指定の文化財などがたくさんあります。

真盛上人は、戦乱や一揆、仏教間の争いが起こる乱世の時代に生きて、天皇から民衆に至るまで、戒律を守り念仏を唱える教えを説いた郷土の偉人です。

現代でも、その無欲清浄な生き方に教えられることも少なくありません。

(「広報津」平成22年5月1日号)

